



社会的処方についての研究と「やさしい日本語」の普及を通じた健康の社会格差是正への取り組み

医学部 教授 牧石 徹也

当講座は、医学部附属病院及び大田市立病院における診療活動、医学生や実習生、若手医師への教育、そして総合診療分野における研究活動に従事しています。我々の目指す「総合診療」とは、（患者さんの持つ“病気”だけではなく）“病気を抱える患者さん”、そして“その患者さんが住む地域丸ごと”を、医学や公衆衛生学の知識に共感力や少しお節介な人情を加味して総合的に診ることで。そのため、医学知識を日々アップデートするだけではなく、地域医療の現場における諸問題にも積極的に目を向けています。

現在、日本を含む多くの国で社会格差が健康格差に結びつく“健康の社会格差（Social Determinants of Health; SoDH）が懸念されています。患者さんやご家族と彼らが必要とする（であろう）地域のリソースを結びつけることを「社会的処方」と呼びます。当講座では大田市と協力して大田医療圏での効果的な社会的処方の実践に向けた研究を行っています。また、島根県内には日本語を母国語としない人々が多く暮らしていますが、しばしば「言葉の壁」が「心の壁」となっています。当講座の臨床実習では、日本語を母国語としない方とコミュニケーションをする上で重要なツール・考え方である「やさしい日本語」について学ぶ機会を提供しています。

